



移住の聖地、定住構想

千葉県一宮町



週末通いと移住は違います！

すでに1980年代頃から一宮町はサーファーを中心に移住を受け入れてきた町。西の湘南、東の外房といわれるほどの日本最大級のサーフシティだ。波質の良さはもとより東京2022オリパラでサーフィンの競技会場となったほどこの町のサーフィンへの理解度は高い。

また古くは明治以来、西の大磯、東の上総一宮といわれるほど文化人の別荘地として気品高い町でもあった。北部を流れる大きな一宮川の南側は東浪見を中心とした若い世代の活気溢れるサーフトアウンを形成しているが、北側の船頭給あたりの落ち着いた環境も捨てがたい。実際新しい移住者の住宅が生まれはじめています。

「サーフィンは17歳の頃からですからもう30年以上。東京に住んでいた頃から海はもっぱら千葉です」と話す施主のYさん。直近では江戸川区にお住まいだったご夫妻

は、王道の東京からの移住者。とはいってもサーフィンで通い慣れていた房総だから地域の特性はよく知っている。

会社員だから海に来るのは週末。そんなライフスタイルを大きく変えたのはコロナから始まったテレワークという働き方改革。Yさんも今では週に2回ほど東京に通う。

コロナの頃からサーフ&キャンプでいろんな場所に出かけることが多くなった。そして房総移住を真剣に考えるきっかけにもなったという。長年通った地域には多くの知り合いもいたことが土地探しにとっても有利だったと話す。たまたま売出したこのゴルフコースのような景色に一目惚れだった。

家づくりは楽しくあるべきだ。Yさんがたくさんの方から資料を集めた中で、つるおか工務店の社長手書きのカラーコピーがひととき

わ目立ったのだと笑う。人間味のある社長のキャラクターと実際の素敵な家とのギャップを楽しみながら家づくりは進んでいった。

ふたりだけの暮らしはコンパクトだから住まいは最小限でいい。広いエントランスに隣接して大きな土間をつくったのはサーフボードやキャンプ用品スポーツ用品を収納できるから。そして海から戻って外シャワーを浴びてバスルームへ直行できるサーファー動線も Teppan だろう。大きなリビングと最小限の寝室、大きな屋根裏収納が有効だそうで、これだけの要素は平屋の南欧風輸入住宅でおさまった。

50歳代の家づくりは洗練されてくる。長い人生、趣味趣向は変わっていくのだけれど、海への憧憬が心の奥で基礎となって極上のライフスタイルを楽しんでいる。

もうすぐ初めての夏がくる。



50歳代の家づくりは人生のさまざまなシーンを見て、聞いて、経験してきた賜物だ。自分の嗜好にトレンドもいろいろ盛り込み、そんな家づくりはじつに楽しそうだ。



- ①海から戻ればバスルームに直行できる動線を確保。パウダールームは白を基調としている
- ②ダイニング、キッチン、リビングで構成する大空間。冬でも暖かいこの空間を維持するのは高機能断熱と高断熱サッシ、そして柔らかいパイン材の無垢の床。
- ③キッチンもとことん白を基調とする。
- ④白いフェンスで囲まれたテラスはドッグランでもある。右手はまるでゴルフコースのような抜け感。施主が惚れ込んだ光景だ。
- ⑤高さのある平屋は敷地の広い房総エリアならではの贅沢かもしれない。この光景が日常だからしぼら旅はしない。
- ⑥玄関右手にはサーフボードラックと遊び道具がたっぷり収納できるクローゼットが有効だ。
- ⑦大きなサッシと上下窓、天窓も備えた室内はとも明るく、冬も暖かく夏も風が通り抜ける。
- ⑧北側になるエントランスと駐車スペースはこれからたくさんのオージーブランドを計画しているようだ。

DATA

敷地面積/422.84㎡ (127.91坪)
 延床面積/140.30㎡ (31.5坪)
 構造/ツーバイフォー木造平屋
 間取り/1LDK
 設計・施工/有限会社つるおか工務店
 家族構成/2人

MATERIAL

◎外部仕上げ
 屋根/スベイン瓦
 外壁/塗壁
 ◎内部仕上げ
 床材/パイン材
 壁・天井/クロス

<取材協力>

千葉外房の家づくりにご興味のある方は下記までご連絡ください。
 「バイザーを見た」といっていただくとスムーズです。



有限会社つるおか工務店
 〒299-5120 千葉県夷隅郡御宿町 2039
 TEL:0470-68-4848
 FAX:0470-68-5499
<http://www.daiku.co.jp>

